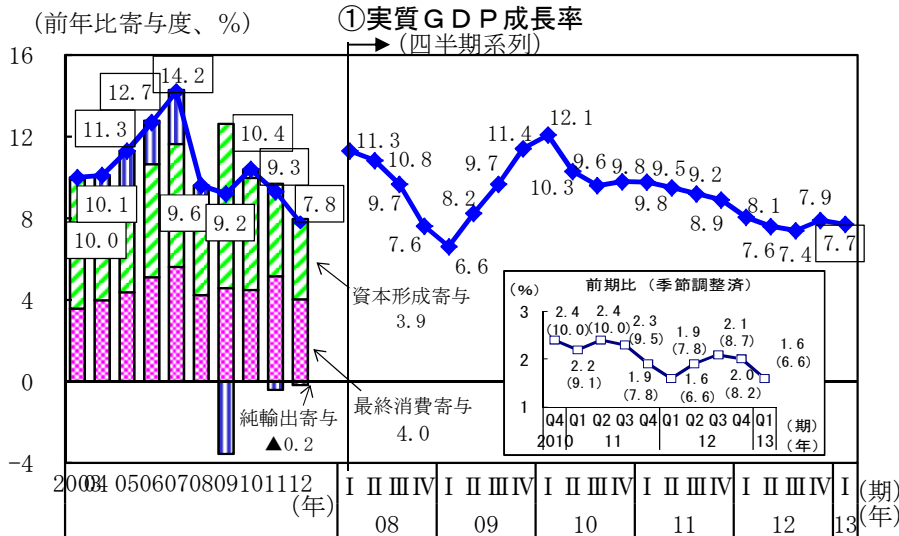


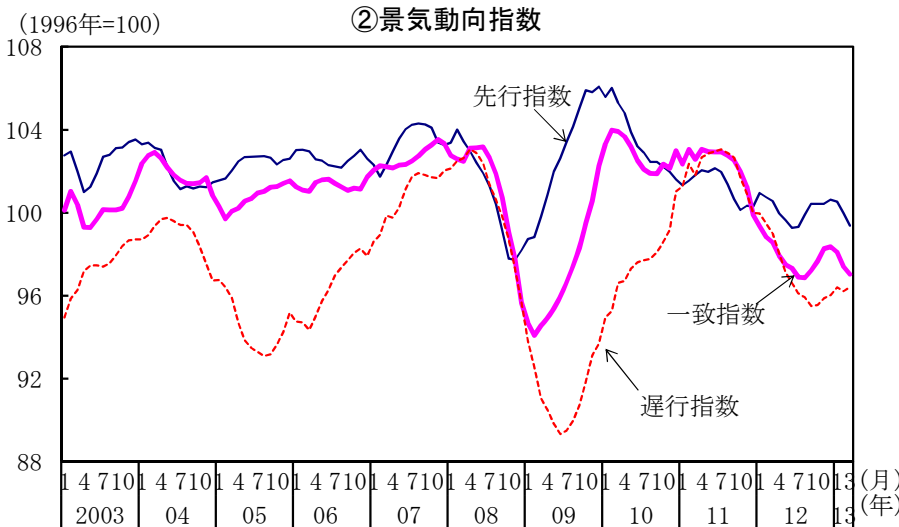
2. アジア地域

中国：

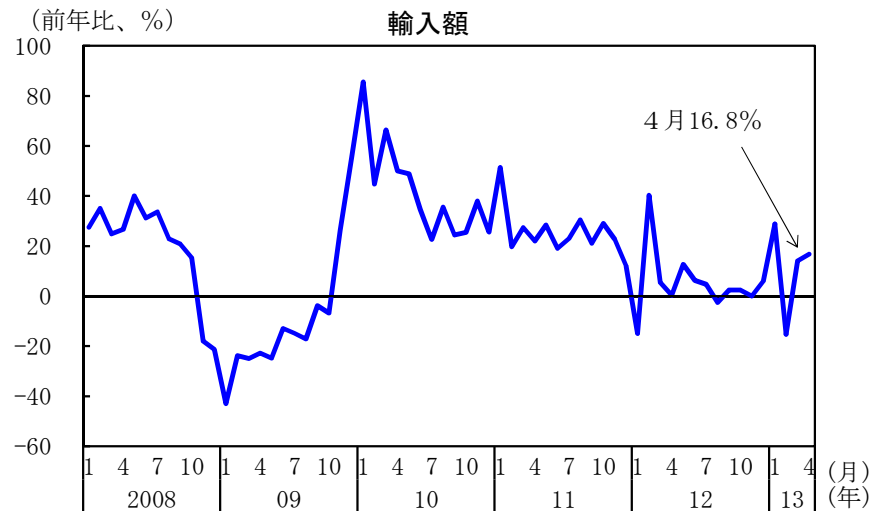
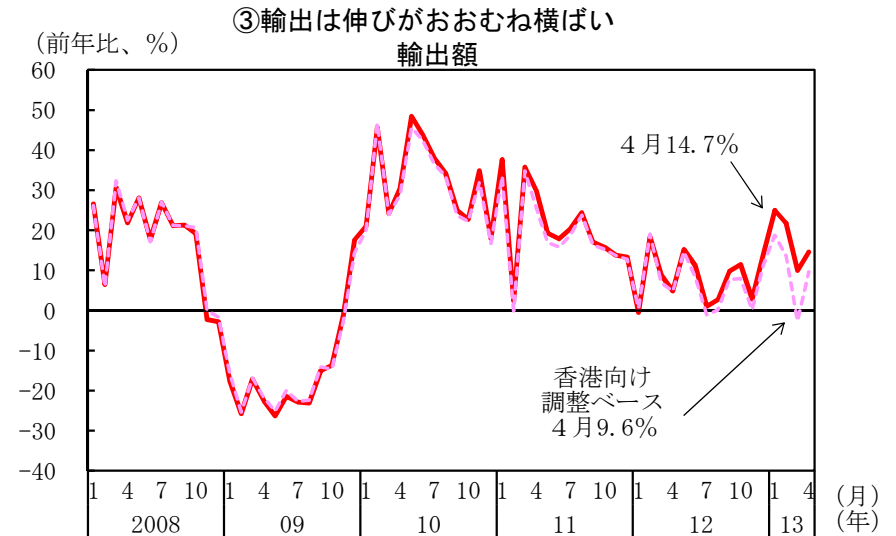
○中国では、景気の拡大テンポは依然緩やかなものとなっている。



(備考) 前期比のグラフの () 内の数値は内閣府試算による前期比年率。

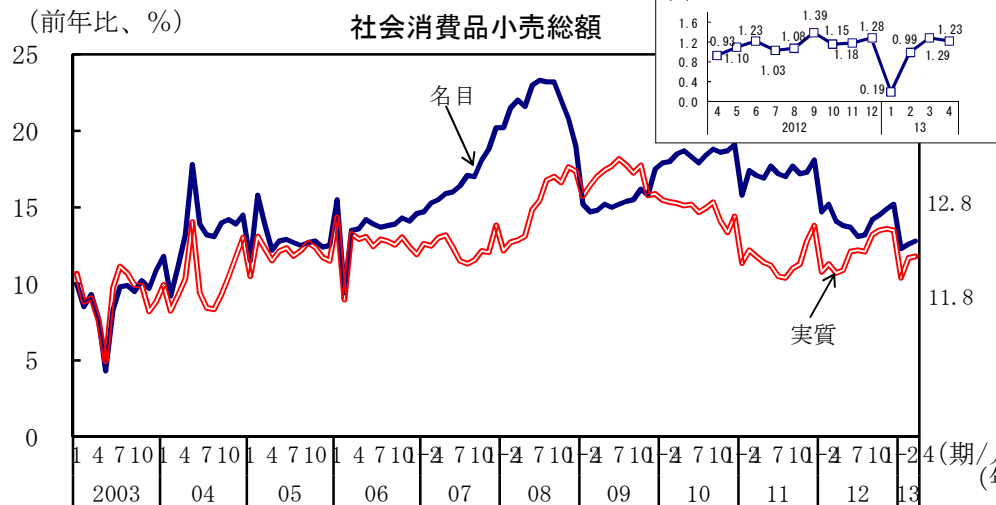


(備考) 一致指数は鉱工業生産等の8指標、先行指数は消費者期待指数等の8指標、遅行指数は個人預金残高等の5指標から構成されている。



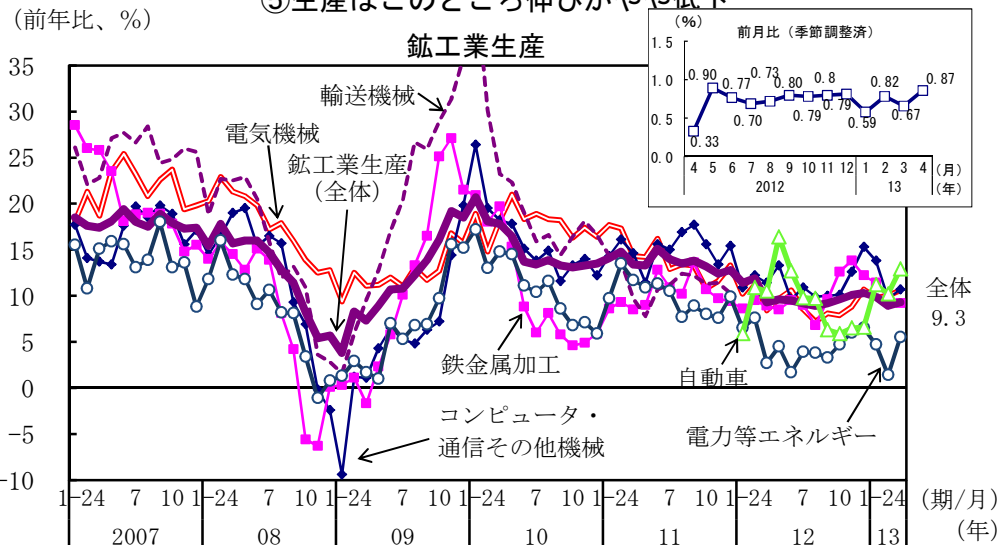
(備考) 1. 香港向け調整ベースは、香港向けを除いた中国公表値に香港統計局の中国からの輸入を加算し推計。また13年4月のみ、同月の中国からの香港向け輸出額及びトレンド項を用いて推計。
2. 春節(旧正月)休暇は、12年1月22~28日、13年2月9~15日。

④消費は伸びが低下 社会消費品小売総額



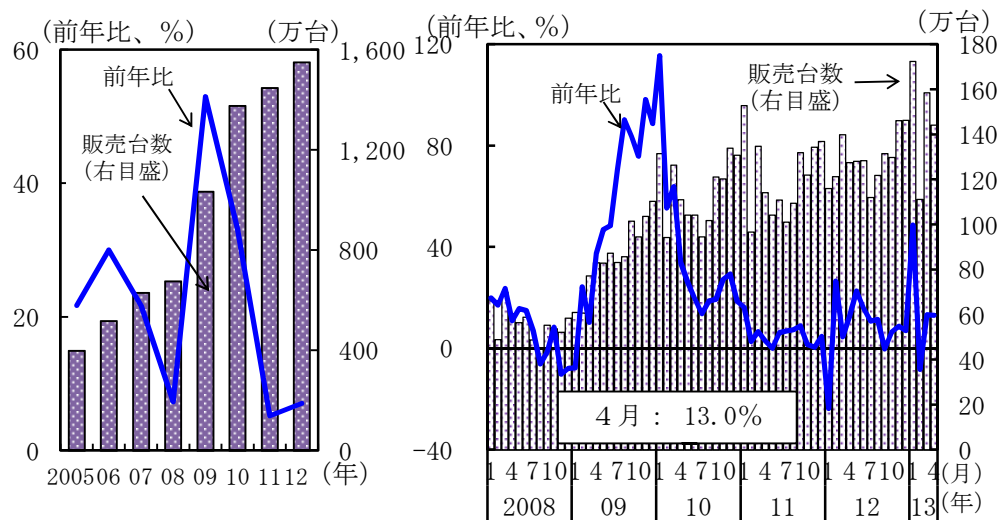
- (備考) 1. 実質伸び率は、11年8月までは小売物価指数を用いて試算。9月以降は国家统计局公表値。
2. 中国では、消費刺激策として農村における家電の普及政策(「家電下郷」)の全国展開(09年2月～13年1月に終了)を実施していた他、小型の低燃費車購入に対する補助金支給(10年6月～、11年10月より一部基準を厳格化)12年には省エネ家電購入に対する補助金支給(12年6月～13年5月)等が実施されている。

⑤生産はこのところ伸びがやや低下



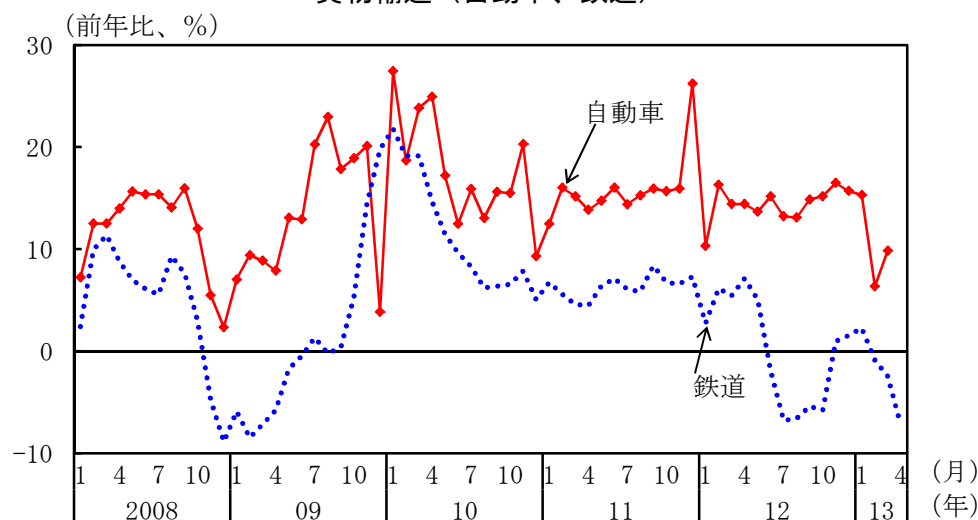
- (備考) 1. 11年1-2月期より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年1-2月前後では接続しない。
2. 12年1-2月期より、「輸送機械」が「自動車」と「鉄道・船舶他」に分かれたため、08年～11年12月までは「輸送機械」、12年1-2月からは「自動車」とした。

乗用車販売台数は伸びが持ち直し



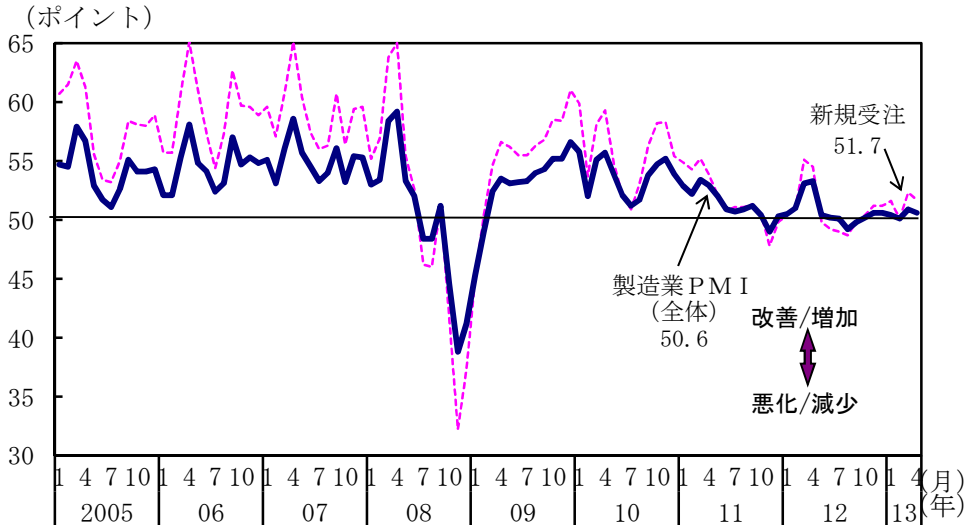
- (備考) 春節(旧正月)休暇は、08年2月6～12日、09年1月25～31日、10年2月13～19日、11年2月2～8日、12年1月22～28日、13年2月9～15日。

貨物輸送 (自動車、鉄道)



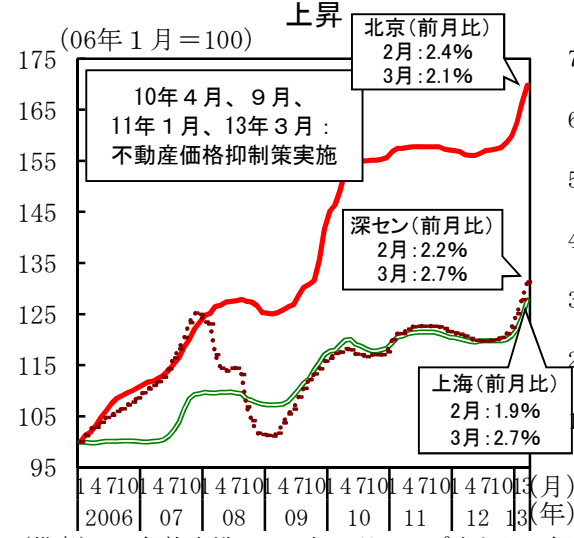
- (備考) 輸送量ベースの前年比。

製造業購買担当者指数 (PMI) は持ち直しの動き



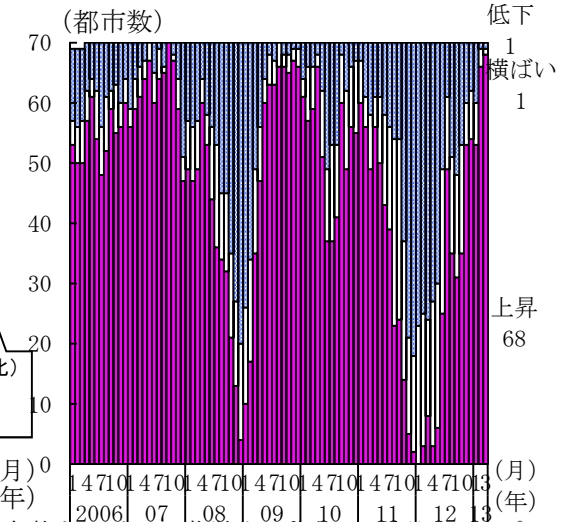
(備考) 1. 製造業PMIは、製造業の業況に関わる11の項目について企業調査を行い、各々が前月に比べてどう変わったのかを集計したもの。製造業PMI (全体)は、生産高、新規受注、原材料在庫、雇用、サプライヤー納期の5つの指標から合成される。50より高ければ、「改善/増加」と回答した企業の割合が多いことを表す。
2. 13年1月より、統計対象社数に変更があったため、厳密には13年1月前後では接続しない。

新築住宅販売価格：

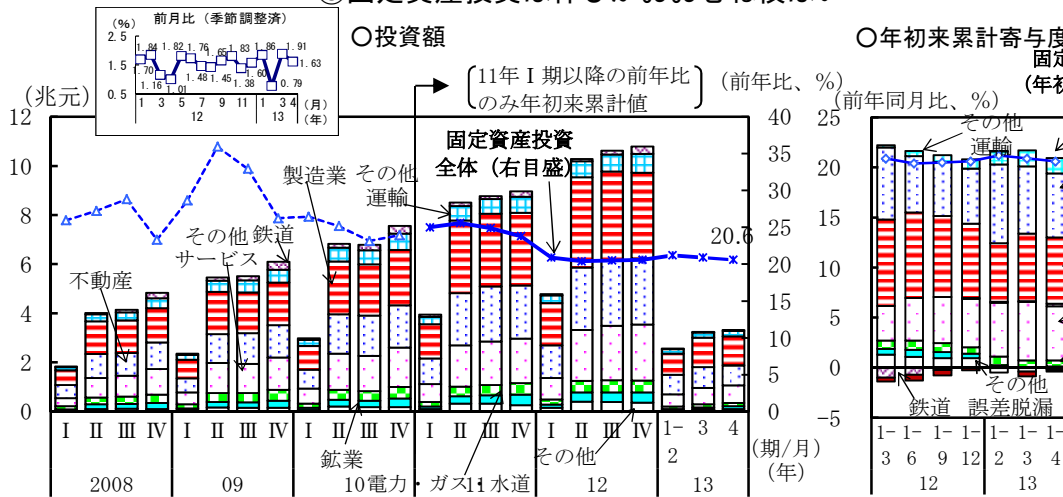


(備考) 1. 価格水準は、06年1月の1㎡当たりの価格を100として指数化。動向は、前月比で、プラスの都市を「上昇」、0.0%の都市を「横ばい」、マイナスの都市を「低下」とした。
2. 11年1月に基準改定があったため、厳密には11年1月前後で接続しない。なお、全国70都市の平均価格は、11年1月から公表されていない。

動向：ほとんどの都市で上昇

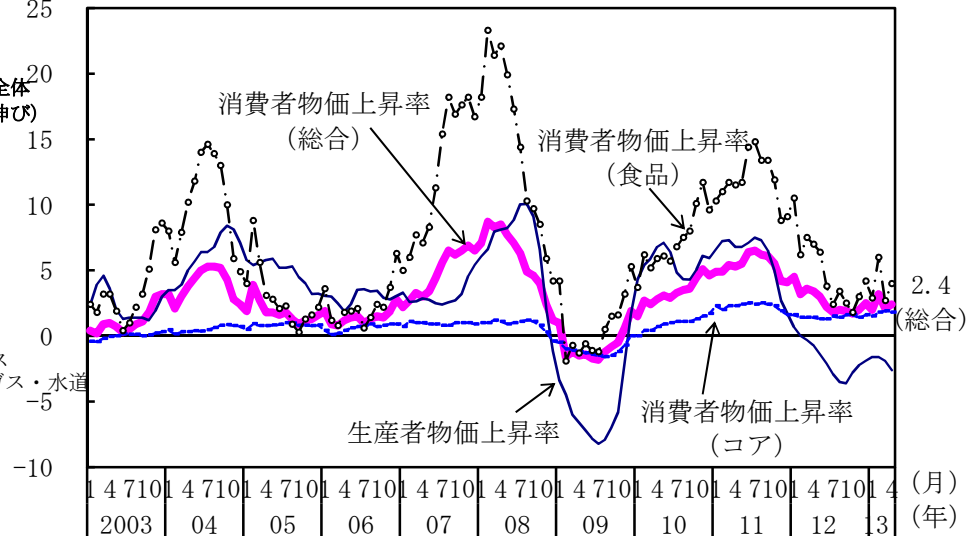


⑥固定資産投資は伸びがおおむね横ばい



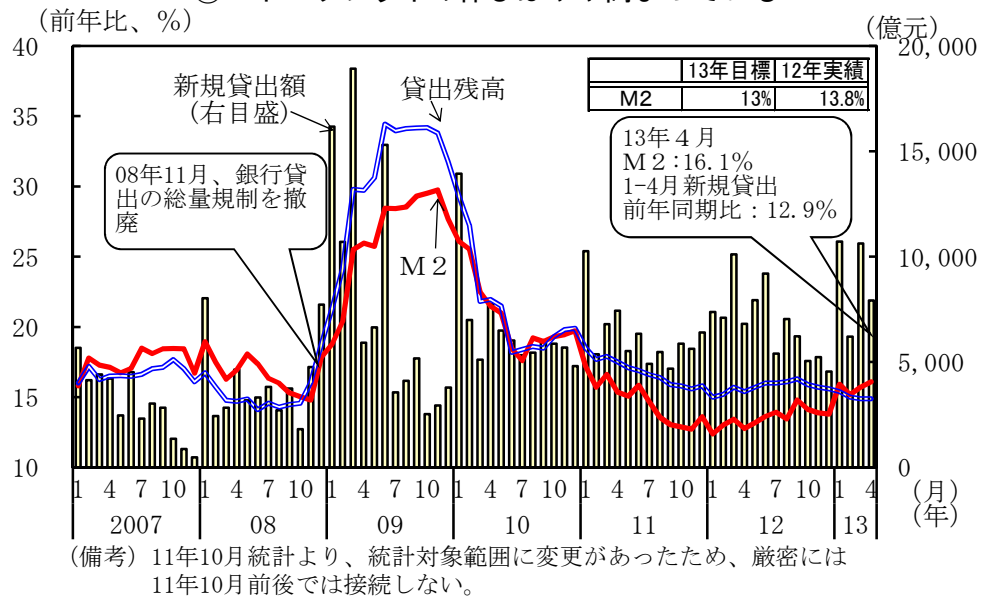
(備考) 1. 11年1-2月期より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年1-2月前後では接続しない。
2. 当局は累積額のみ公表。四半期及び単月の値は、内閣府試算。

⑦消費者物価上昇率はおおむね横ばい



(備考) コア消費者物価は、総合から食品とエネルギーを除いたもの。

⑧ マネーサプライの伸びはやや高まっている

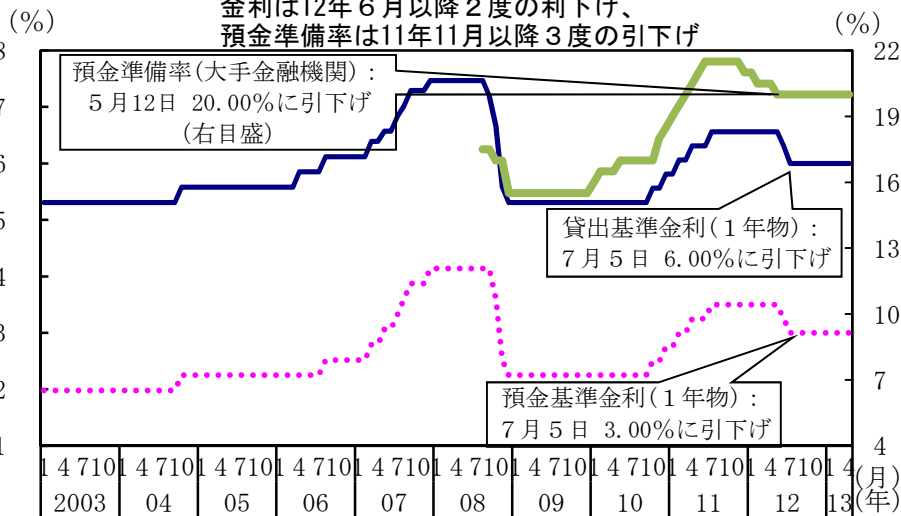


人民元名目為替レート(短期) : やや増価

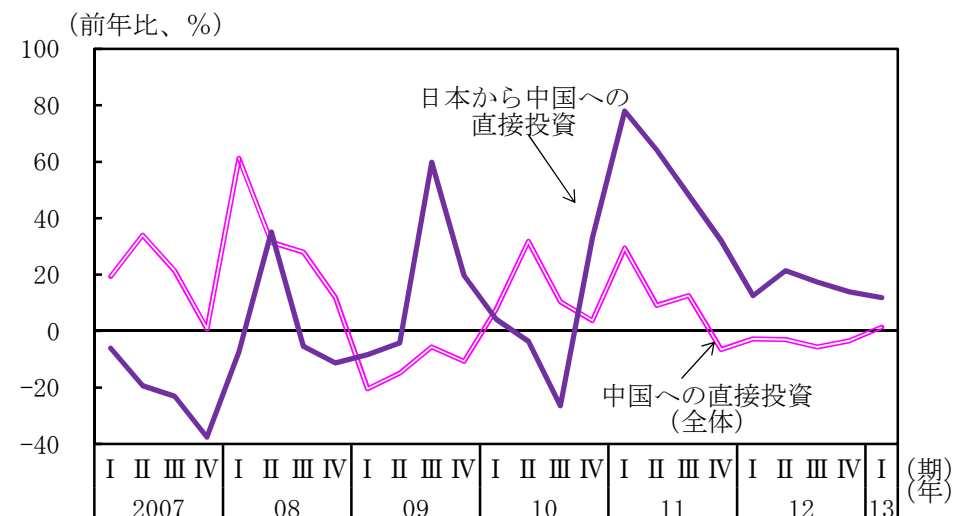


⑨ 金融政策の動向

金利は12年6月以降2度の利下げ、
預金準備率は11年11月以降3度の引下げ

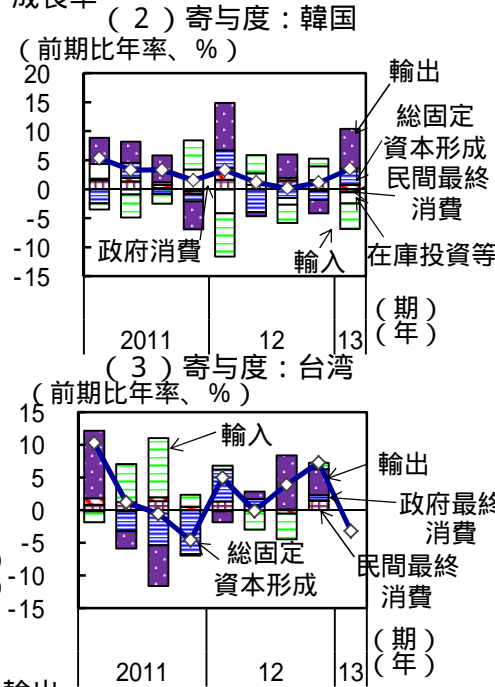
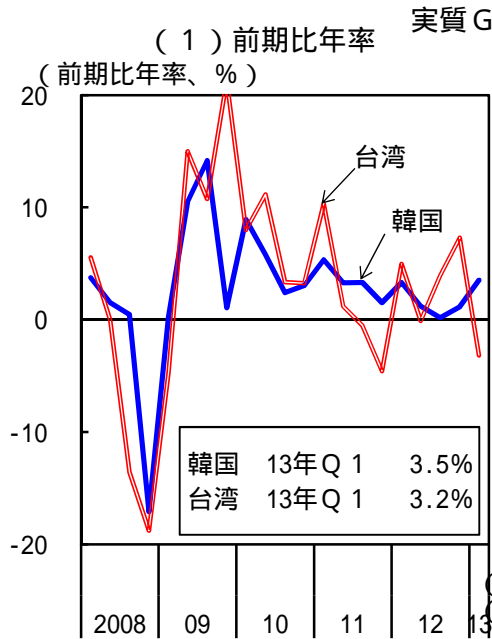


⑩ 対内直接投資

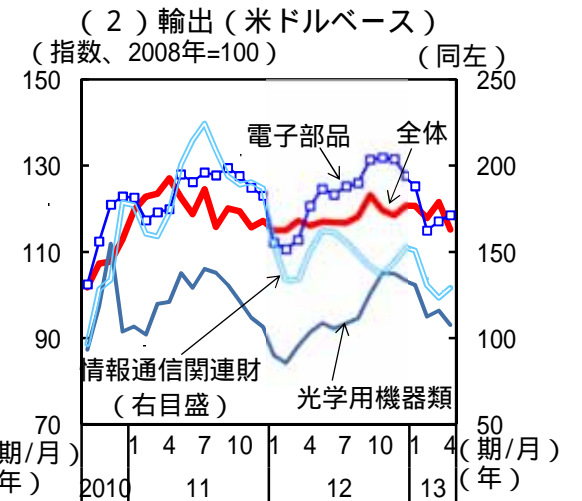
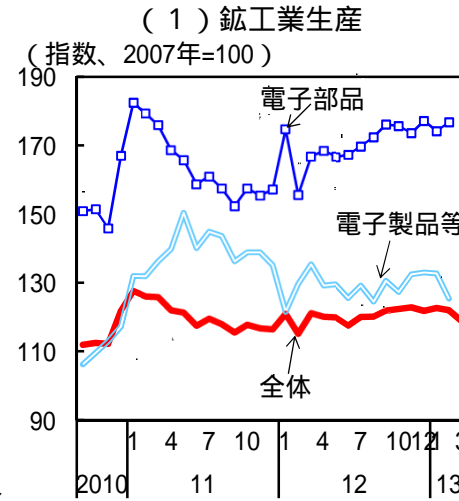


韓国、台湾：

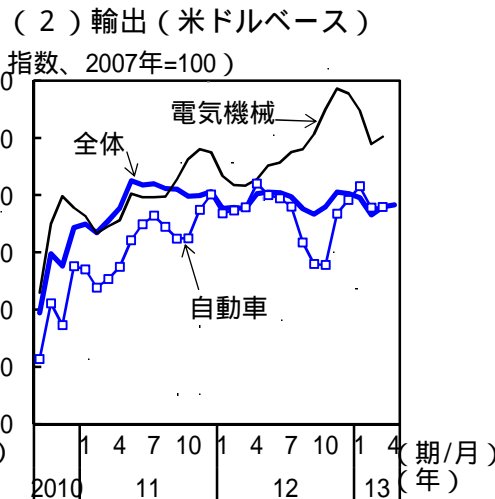
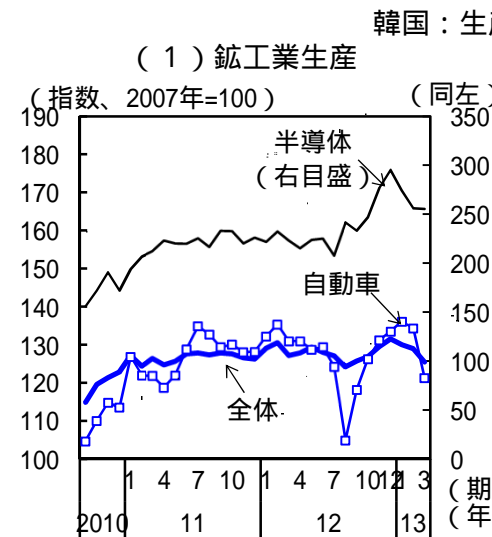
韓国、台湾では、景気は足踏み状態となっている。



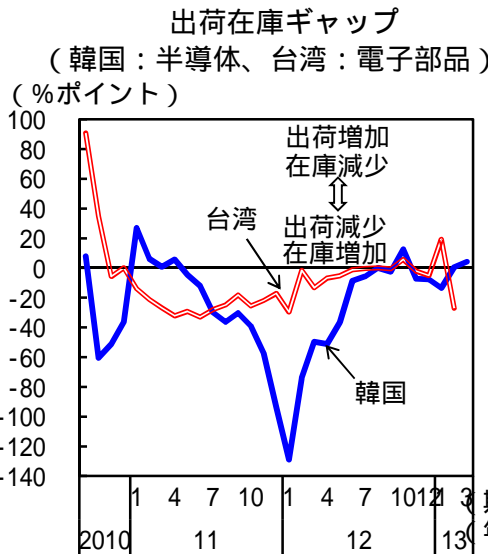
台湾：生産、輸出



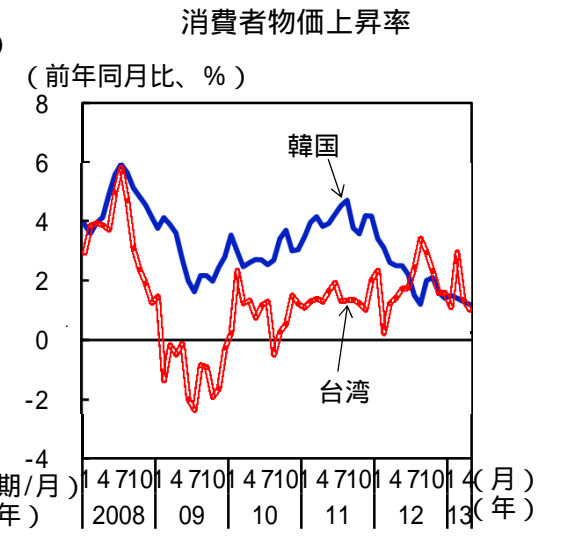
(備考) 輸出総額は季節調整値。輸出の電子部品、情報通信関連財及び光学用機器類は原数値の3か月移動平均値。



(備考) 輸出の指数は、原数値の3か月移動平均値。



(備考) 出荷在庫ギャップ = 出荷前年比 - 在庫前年比。

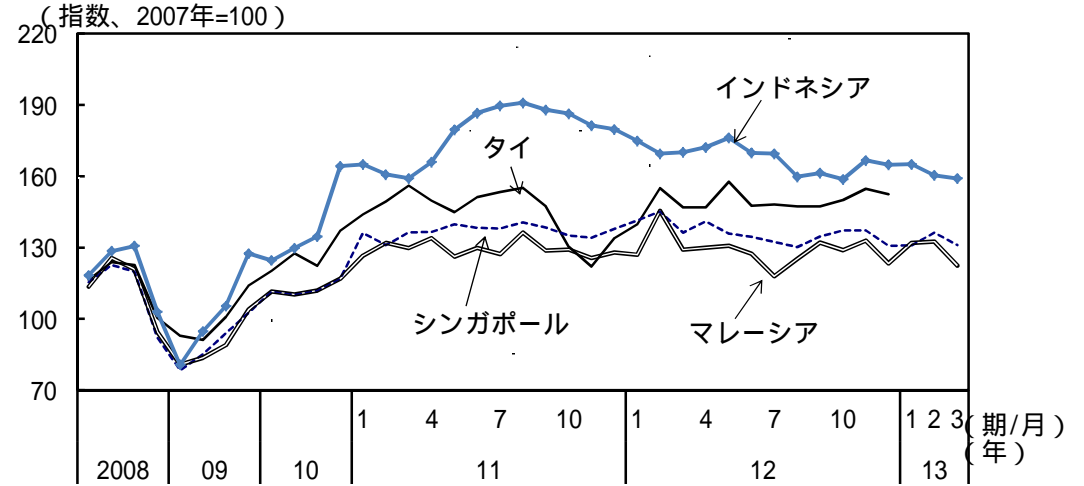
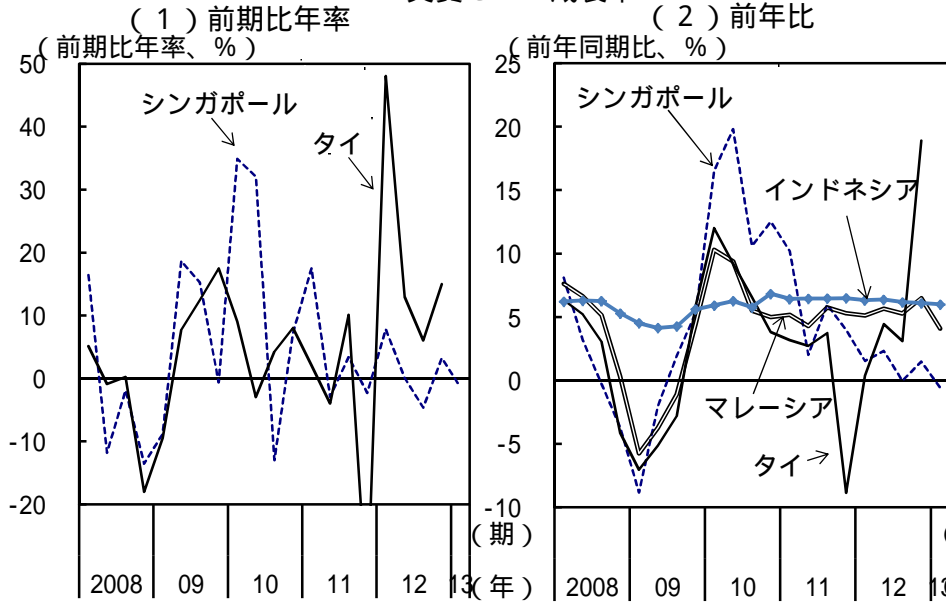


ASEAN地域：

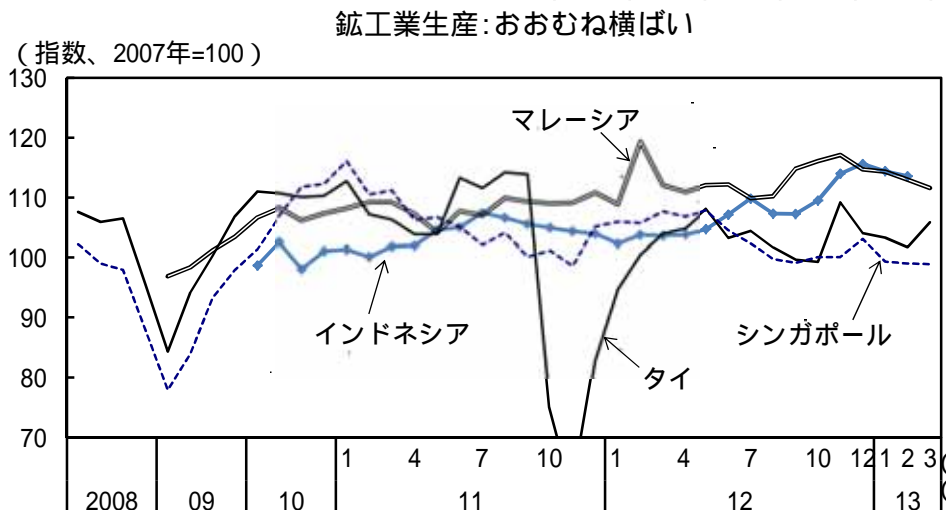
ASEAN地域（インドネシア、タイ、マレーシア及びシンガポール）では、内需を中心として、総じて持ち直しの動きがみられる。

実質GDP成長率

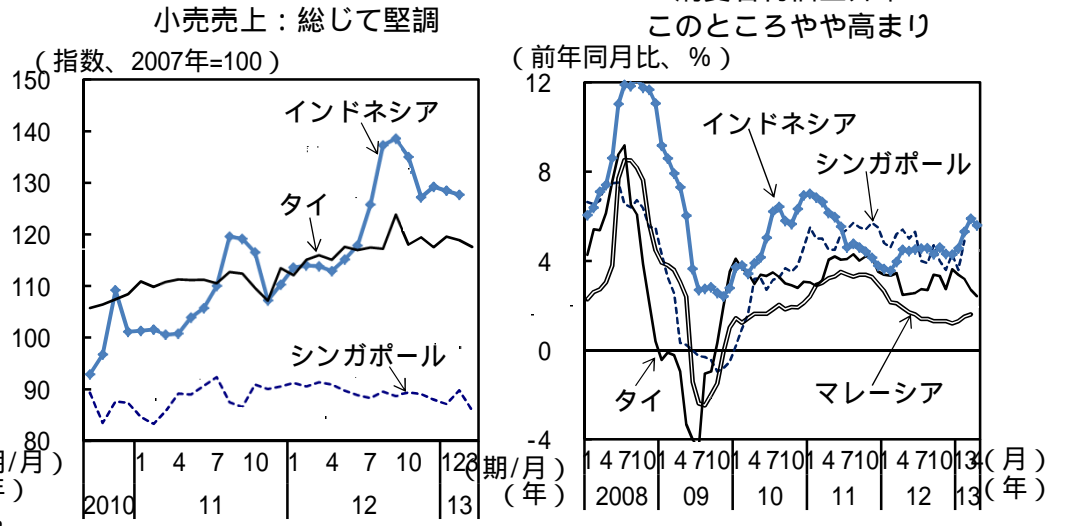
輸出（米ドルベース）：おおむね横ばい



(備考) インドネシアは原数値の3か月移動平均値。タイ、マレーシア及びシンガポールは季節調整値。なお、タイは基準改定中のため13年以降の数値が公表されていない。



(備考) 1. インドネシア、タイ及びシンガポールは製造業の数値。ただし、シンガポールは振れが大きいバイオ・メディカルを除いたもの。
2. インドネシアは原数値の3か月移動平均値（10年基準、10年以降のみ公表）。インドネシアを除く各国の数値は、季節調整値（マレーシアは05年基準、09年以降のみ公表）。



(備考) 1. タイは民間消費。
2. インドネシアは原数値の3か月移動平均値（10年基準、10年以降のみ公表）。タイ、シンガポールの数値は季節調整値。

インド：

○インドでは、景気は緩やかに減速している。

